

看護学部学生の社会人基礎力の獲得に関する研究 ～令和5年度（2023）入学生 第1回目調査結果報告～

藤村雅子*1・立川美香*1・福岡泰子*1・安成智子*1・新開奏恵*1・角光通子*2・佐藤美幸*1
(*1 宇部フロンティア大学看護学部看護学科・*2 宇部フロンティア大学就職課)

A Study on the Acquisition of Basic Skills to Be Members of Society
by Students in the Faculty of Nursing

Masako Fujimura*1, Mika Tachikawa*1, Yasuko Fukuoka*1, Tomoko Yasunari*1,
Kanae Shinkai*1, Michiko Kadomitsu*2, Miyuki Sato*1
(*1 Department of Nursing, Ube Frontier University,
*2 Career services division of Ube Frontier University)

近年の人口動態の変化や事業環境の激変により「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、『社会人基礎力』が求められるようになってきた。

本研究では、看護学部での教育による学生の社会人基礎力の獲得状況とその課題および卒業時の到達目標（ディプロマポリシー）の到達度を明らかにし、今後の看護教育に役立てることを目的として、令和5年度に入学した看護学部学生に対して社会人基礎力に関する調査をおこなった。

調査の結果、社会人基礎力の中でもチームワークに関する「傾聴力」「状況把握力」「規律性」が高い傾向にあった。また、職業人意識の「責任感」が高い傾向にあった。反面、アクションの「実行力」、シンキングの「創造性」、チームワーク力の「ストレスコントロール力」が課題であることがわかった。

キーワード：社会人基礎力、キャリアデザイン、ディプロマポリシー

Keyword: Basic Skills to Be Members of Society, Career Design, Degree Awarding Policy

1. はじめに

文部科学省による令和4年度学校基本調査では、大学（学部）・短期大学（本科）進学率は60.4%で前年度より1.5ポイント上昇し、過去最高となった¹⁾。近年の人口動態の変化や事業環境の激変により、社会は、大学や短大を卒業した学生に、専門知識を備えた即戦力としての人材ではなく、変化に対応でき、付加価値を創出する担い手を求めるようになってきた。

こうしたことを背景に経済産業省では、平成18年（2006）に「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、『社会人基礎力』を提示した。社会人基礎力は「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力と12

の要素を掲げ、自己を認識してリフレクションしながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが自らのキャリアを切り開いて行く上で必要と位置づけ²⁾、人材に求められる能力要件も大幅に変化してきた。

文部科学省の令和2年度の大学における教育内容等の改革状況についての調査によると、大学での初年次教育（高等学校から大学への円滑な移行を図り、大学での学問的・社会的な諸条件を成功させるべく、主として大学新入生を対象に作られた総合的教育プログラム）で、レポート・論文の書き方などの文章作法を身につけるためのプログラムを実施している大学は、平成28年では661大学（89.3%）、令和2年では690校（91.9%）、プレゼンテーションやディスカッション等

の口頭発表の技法を身に付けるためのプログラムを実施している大学は平成28年では613校(83.3%)、平成2年では639校(85.1%)、将来の職業生活や進路選択に対する動機付け・方向付けのためのプログラムを実施している大学は、平成28年では565校(76.8%)、平成2年では573校(76.3%)となっている。また、キャリア教育を教育課程内で実施している大学は、平成28年713校(96.9%)、令和2年では736校(98.0%)となっており、社会状況の変化に対応した、初年次教育やキャリア教育に取り組んでいる大学が多くなってきている³⁾。

宇部フロンティア大学看護学部では、初年次教育の一環として「基礎ゼミナール」を必修科目として、前期に<スタディスキル>、後期に<キャリアデザイン>を学修する。

「基礎ゼミナール」は、前期に大学生活と学習が円滑に進むよう、大学で学ぶことの意義と意味、自らの学習環境、ライティングスキル・リーディングスキル・コミュニケーションスキル・レポートの作成などのスタディスキルと、スケジュール管理や金銭管理・マナーなどの生活上のスキルを学ぶ。こうした学びにより、学生に対し、高校までの受動的学修から能動的学修へと変化を促すことを目的としている。

後期には、社会人基礎力の基盤の一つとして、グループワークとキャリア支援を軸として展開する。グループワークでは、課題に主体的に取り組むと同時にグループ内での自らの役割や立場を全うし、コミュニケーションスキルを発揮しながらグループメンバーの意見を取り入れる姿勢を学ぶ。また看護職に向けたキャリアを自らデザインできるよう卒業生や先輩の話や患

者の体験を聴く機会を設け、自分の将来像を見据えた4年間の過ごし方を考えることを目的としている。

このような学びによって、学生は社会人基礎力としてどのように身につけているのか、また学生自身がどのような課題を残しているのかを評価するために、経年的な変化を追っていきたいと考えた。これにより、基礎ゼミナールおよび看護学部の教育の評価の1つとして本研究に取り組んだ。今回、2023年度入学生の1年次の社会人基礎力とディプロマポリシーの調査を行ったので報告する。

2. 研究目的

本研究の目的は、看護学部での教育による学生の社会人基礎力の獲得状況とその課題および卒業時の到達目標(ディプロマポリシー)の到達度について明らかにし今後の教育に役立てることである。

<看護学部のディプロマポリシー>

1. 人に寄り添う高い倫理観
生命の尊厳や基本的人権を擁護できる高い倫理観を持つことができる。
2. 幅広い教養に基づく柔軟な思考力
幅広い教養を育むために、学問を探求し批判的思考力を持つことができる。
3. 看護学を生涯学び続ける姿勢
看護の現象・事象に対応できる高度な専門的知識・技術を高める姿勢を持つことができる。
4. 看護専門職としての高度な実践力
専門職としての的確な判断を行い、質の高い看護を提供する能力を持つことができる。
5. 看護の視点から広く社会貢献する態度
グローバルな社会における看護の役割を広い視野で捉え、社会に貢献する態度を持つことができる。

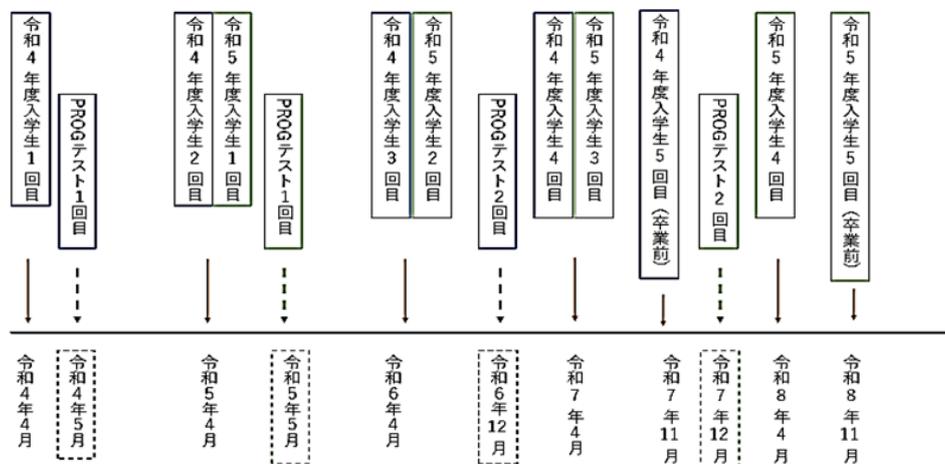


図1 研究調査の計画

3. 研究方法

研究の方法は、令和4年度および令和5年度入学生を対象に、各学年および卒業前にエンプロイアビリティチェックシートと独自に作成した質問紙調査、およびPROG⁴⁾をおこなう。データの分析は、①学年別、テスト別に各回記述統計量を算出し、比較する。②経年的変化を見るために、学年別の多重比較を行う。③エンプロイアビリティチェックシートとPROG および独自に作成した質問紙で学年別に比較を行う。④データ分析は、各学年で学年内の比較、2年目以降は2学年間での比較を行い、最終的には2学年を1つのデータとして学年経過による変化を明らかにする(図1)。

3.1. 調査対象者

宇部フロンティア大学看護学部看護学科に令和5年度に入学した学生で、調査研究の同意が得られた51名を調査対象者とした。

3.2. 調査方法

令和5年(2023)5月に、質問紙を配布し調査を行った。調査は自記式で無記名とした。質問紙はその場で回収した。

3.3. 調査内容

以下の1)~7)の内容を質問紙で行った。

1) 将来目指す職業

2) 学習状況

学習状況については、①規則正しい生活ができてい
る②計画的に学習している③授業の出席率はよい④
予習をしている⑤復習をしている⑥成績に満足して
いるの6項目について「はい」「いいえ」の2つの選
択肢で行った。

3) 生活状況

生活状況については、①相談できる人がいる②友人
関係は良いと思う③大学生活は楽しい④大学生活に
満足しているの4項目について「はい」「いいえ」の
2つの選択肢で行った。平日の就寝時間と起床時間を
直接記述する。

4) アルバイトの状況

アルバイトを行っているか、「はい」「いいえ」の2
つの選択肢で行った。アルバイトを行っている場合は
アルバイトの回数を直接記述する。

5) 社会人基礎力

社会人基礎力は、経済産業省が示す「前に踏み出す
力(アクション)・「考え抜く力(シンキング)・「チ
ームで働く力(チームワーク)」の3つの能力と12の
要素とした。「前に踏み出す力(アクション)」として

①主体性(物事に進んで取り組む力)②働きかけ力(他
人に働きかけ巻き込む力)③実行力(目標を設定し確
実に行動する力)。「考え抜く力(シンキング)」は、
④課題発見力(現状を分析し目的や課題を明らかにす
る力)⑤計画力(課題の解決に向けたプロセスを明ら
かにし準備する力)⑥創造力(新しい価値を生み出す
力)。「チームで働く力(チームワーク)」は、⑦発信
力(自分の意見を分かりやすく伝える力)⑧傾聴力(相
手の意見を丁寧に聞く力)⑨柔軟性(意見の違いや立
場の違いを理解する力)⑩状況把握力(自分と周囲の
人々の物事の関係性を理解する力)⑪規律性(社会の
ルールや人との約束を守る力)⑫ストレスコントロ
ール力(ストレスの発生源に対応する力)とし、「あて
はまらない」1点・「あまりあてはまらない」2点・「ま
ああてはまる」3点・「あてはまる」4点とした。得点
が高いほど能力が高いことを示す。

6) 職業人意識

職業人意識は、平成29年度労働者等のキャ
リア形成における課題に応じたキャリアコンサルテ
ィング技法の開発に関する調査・研究事業、エンプロ
イアビリティチェックシート⁵⁾に示す、就職基礎能力
としての「責任感」を①社会の仕組みの多くは働く人
の納税で成り立っていることを理解している②ルー
ルや法律、約束を一人ひとりが守ることが責任である
事を理解し行動している③無断で休んだり、遅刻する
と周囲に大きな迷惑をかけることを理解し行動して
いる④組織は一人ひとりの従業員(学生)の行動によ
って社会から評価されることを理解し行動している
⑤組織に対するクレームや問題は従業員(学生)全員
の責任である事を理解し行動しているの5項目で調
査した。「向上心・探求心」は、①わからないことは
すぐに人に聞く前に自分でまず答えを考える②自己
成長のために定期的に取り組んでいることがある③
常に社会や経済の動きに関心を持つように心がけて
いる④社会問題等に対して自分なりの考えを持ち行
動している⑤今後の仕事に必要な職業能力を分析し、
向上させているの5項目で調査した。「あてはまらない」1点・「あまりあてはまらない」2点・「まああて
はまる」3点・「あてはまる」4点とした。得点が高い
ほど能力が高いことを示す。

また、「職業意識・勤労観(職業や勤労に関する広
範囲な見方・考えかたを持ち、意欲や態度等を示すこ
とができる)」については、「あなたにとって働くこと
で得られると思うよいこと」をできるだけ多く答える

自由記述とした。

7) ディプロマポリシー

看護学部のディプロマポリシーを研究者間で検討し、卒業時の到達目標として次の29項目で測定した。

①基本的人権は国民に平等な権利である②人種や性別などの差別は仕方がない③障害者は特別に扱われなければならない④看護は全ての人々に平等に行わなければならない⑤個人が特定されなければ患者のことを他者に話してもよい⑥幅広い分野の教養を身につけている⑦複雑な問題について順序立てて考えることが得意だ⑧誰もが納得できるような説明をすることができる⑨私の欠点は気が散りやすいことだ⑩物事を考えるとき他の案について考える余裕がない⑪課題がでなくても自ら進んで学習(予習・復習)をする⑫疑問を持ったことについては進んで調べている⑬苦手な科目や技術について克服する努力をしている⑭生涯にわたり学び続けたいと思う⑮新しいものにチャレンジすることが好きである⑯役に立つかわからないことでも、できる限り多くのことを学びたい⑰わからないことがあったら、先生や他の学生に積極的に聞く⑱先を考えて計画を立てることができる⑲いつも偏りのない判断をしようとする⑳一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする㉑たとえ意見が合わない人の話にも耳をかたむける㉒他者のアドバイスを熟慮して実践に活かす㉓自己の能力を高めるために自分に合った勉強方法を用いている㉔世の中で起きていることについて興味を持っている㉕ボランティア活動に参加している㉖困っている人がいたら、手を差し伸べる㉗社会のルールは常に守っている㉘集団の中で自分の役割を果たしている㉙私は地域に貢献しているとしている。

各項目の配点は、「そう思わない/行っていない」(1点)・「あまりそう思わない/あまり行っていない」(2点)・「ややそう思う/時々行っている」(3点)・「そう思う/いつも行っている」を(4点)とした。

3.4. 分析方法

今回の調査は令和5年度(2023年度)入学学生の第1回目の調査につき、質問項目ごとに記述統計量を算出した。

3.5. 倫理的配慮

本研究は、研究者の所属施設の研究倫理審査委員会の承認を得て行った(管理番号21007)。研究対象者には、研究の目的・方法・期待される結果と学会等で

の公表予定、研究対象者にとっての研究協力に関する利益と不利益を伝え、自由意思による研究参加の保証ならびに辞退の自由、匿名性の保持を保障した。これらを文書と口頭で説明し、同意を得た。

4. 結果

4.1. 調査票の回収状況と基本属性

調査対象51名で、回収49名(回収率96.1%)だった。性別は男性11名、女性38名だった。

4.2. 将来の希望職種

将来の希望職種として、看護師は49.0%、保健師6.1%、養護教諭4.1%、助産師4.1%であった。32.7%の学生が複数資格を希望していた。看護系以外の職種を選択している学生はいなかった(表1)。

表1 将来の希望職種 2023年度入学 1年次

職種 (n=49)	人	%
看護師	24	49.0
保健師	3	6.1
養護教諭	2	4.1
助産師	2	4.1
看護師・保健師	4	8.2
看護師・保健師・養護教諭	2	4.1
看護師・保健師・助産師	1	2.0
看護師・養護教諭	7	14.3
看護師・助産師	2	4.1
その他	0	0.0
無回答	2	4.1

4.3. 学習・生活状況

学習状況は、「規則正しい生活ができている」は83.7%、「計画的に学習している」は77.6%、「授業の出席率はよい」は100%、「予習をしている」は55.1%、「復習をしている」は93.9%、「成績に満足している」は10.2%だった(表2-1)。

表2-1 学習状況 2023年度入学 1年次

項目 (n=49)	人	%
規則正しい生活ができている	はい	41 83.7
	いいえ	8 16.3
計画的に学習している	はい	38 77.6
	いいえ	11 22.4
授業の出席率はよい	はい	49 100
	いいえ	0 0
予習をしている	はい	27 55.1
	いいえ	22 44.9
復習をしている	はい	46 93.9
	いいえ	3 6.1
成績に満足している	はい	5 10.2
	いいえ	44 89.8

表 2-2 生活状況 2023 年度入学 1 年次

項目 (n=49)		人	%
相談できる人がいる	はい	46	93.9
	いいえ	3	6.1
友人関係はよいと思う	はい	46	93.9
	いいえ	3	6.1
大学生活は楽しい	はい	46	93.9
	いいえ	3	6.1
大学生活に満足している	はい	41	83.7
	いいえ	8	16.3

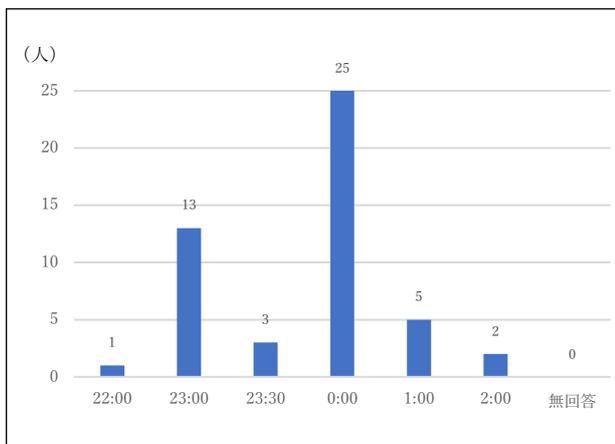


図 2 平日の就寝時間

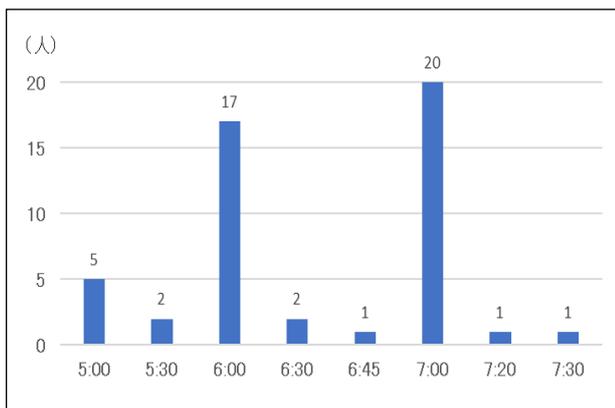


図 3 平日の起床時間

生活状況は、「相談できる人がいる」「友人関係は良いと思う」「大学生活は楽しい」の 3 項目が 93.9%、「大学生活に満足している」83.7%だった (表 2 - 2)。平日の就寝と起床時間は、就寝時間 0 : 00 が最も多く 51.0%、起床時間は 7 : 00 が 40.8%だった (図 2, 図 3)。また、睡眠時間は 6 時間未満が 9 名 (18.4%)、6

～7 時間未満が 11 名 (22.4%)、7～8 時間未満が 25 名 (51.0%)、8 時間が 4 名 (8.2%) だった。

4.4. アルバイト

アルバイトをしている学生は全体の 48.9%だった。アルバイトの頻度として最も多かったのは、週に 2 回が 39.1%だった。回数が多い学生は週に 3～5 回が 4.3%、4 回が 8.7%だった (表 2-3)。

表 2-3 アルバイト 2023 年度入学 1 年次

項目 (n=47)		人	%
アルバイトをしている	していない	24	51.1
	している	23	48.9
項目 (n=23)	回数	人	%
アルバイトをしている (回/週)	1	3	13.0%
	1～2	2	8.7%
	2	9	39.1%
	2～3	3	13.0%
	3	3	13.0%
	3～5	1	4.3%
	4	2	8.7%

4.5. 社会人基礎力

アクションでは、【主体性】【働きかけ力】【実行力】の 3 要素で構成され、それぞれ 5 つの質問の計 15 項目の質問を行った。

【主体性】の 5 項目の合計の平均値 (標準偏差:SD) は 16.71 (3.20) だった (表 3)。【主体性】の中で最も当てはまる項目は、「課せられた役割・作業はベストを尽くす」で、30.6%だった。各項目の平均は 3.21～3.65 であった (表 4-1)。

【働きかけ力】5 項目の合計の平均値 (SD) は、16.54 (2.71) だった (表 3)。【働きかけ力】の中で最も当てはまる項目は、「イベント企画を実現したことがある」で 28.6%だった。各項目の平均は 2.77～3.69 で、「初対面でも自ら話しかける」が 2.77 と最も平均値が低かった (表 4-1)。

【実行力】の 5 項目の合計の平均値 (SD) は、14.42(3.52)だった (表 3)。【実行力】の中で最も当てはまる項目は、「予定が狂ったら軌道修正してやり遂げる」28.6%だった。各項目の平均は 2.83～3.08 だった (表 4-1)。

アクションの 3 要素の中で平均値をみると高い順に【主体性】16.71、【働きかけ力】16.54、【実行力】14.42 だった。しかし、【働きかけ力】の中の「初対面でも自ら話しかける」以外は【働きかけ力】の平均値は高く、【主体性】とほぼ同じであった。また、3 要素中最も平

〔看護学〕
〔研究ノート〕

均値が低い項目は「初対面でも自ら話しかける」で、最も高い項目は「目標達成のために周囲に協力を得たことがある」だった。

シンキングでは、【課題発見力】【計画力】【創造力】の3要素で構成され、それぞれ5つの質問の計15項目の質問を行った。

【課題発見力】の5項目の合計の平均値(SD)は16.33(2.15)だった(表3)。【課題発見力】の中で最も当てはまる項目は、「自分が考えた工夫で効率UPしたことがある」「上手いかない原因を見つけて改善したことがある」の2項目で20.4%だった。各項目の平均値は、3.13~3.38だった(表4-2)。

【計画力】の5項目の合計の平均値(SD)は16.71(2.48)だった(表3)。【計画力】の中で最も当てはまる項目は、「何かを計画する際、「もしも」を考えるようにしている」で22.4%だった。各項目の平均値は、3.10~3.50だった(表4-2)。

【創造力】の5項目の合計の平均値(SD)は13.06(3.14)だった(表3)。【創造力】の中で最も当てはまる項目は、「他人からユニークと言われたことがある」「無駄と思いつつやってみたら心が動いた経験がある」の2項目で24.5%だった。各項目の平均値は、1.88~3.06だった(表4-2)。

シンキングの3要素の中で平均値をみると高い順に【計画力】16.71、【課題発見力】16.33、【創造力】13.06だった。【創造力】の各項目の平均値はすべて低いが、「クリティカルシンキングを意識し心がけている」「日常の中でちょっとした新発明・発見をしたことがある」「無駄と思いつつやってみたら心が動いた経験がある」はやや高い値だった。シンキングの3要素中で平均値が最も高かったのは「計画を立てる際、優先順位を考えている」だった。

チームワークは、【発信力】【傾聴力】【柔軟性】【状況把握力】【規律性】【ストレスコントロール力】の6要素で構成され、それぞれ5つの質問の計30項目の質問を行った。

【発信力】の5項目の合計の平均値(SD)は15.92(2.40)だった(表3)。【発信力】の中で最も当てはまる項目は、「相手の立場や人権などに配慮して発言する」で36.7%だった。各項目の平均値は2.69~3.58だった(表4-3)。

【傾聴力】の5項目の合計の平均値(SD)は17.21(2.33)だった(表3)。【傾聴力】の中で最も当てはまる項目は、「話を聞く際、相手の気持ちを考え汲み取る

努力をしている」32.7%だった。各項目の平均値は、3.23~3.71だった(表4-3)。

【柔軟性】の5項目の合計の平均値(標準偏差:SD)は16.56(2.10)だった(表3)。【柔軟性】の中で最も当てはまる項目は「一度決めたことは状況により臨機応変さを大切にしている」で30.6%だった。各項目の平均値は2.81~3.58だった(表4-3)。

【状況把握力】の5項目の合計の平均値(SD)は17.40(2.58)だった(表3)。【状況把握力】の中で最も当てはまる項目は「相手との関係性を理解して適切な言葉遣いや行動をする」34.7%だった。各項目の平均は3.23~3.63だった(表4-3)。

【規律性】の5項目の合計の平均値(標準偏差:SD)は17.42(2.23)だった(表3)。【規律性】の中で最も当てはまる項目は「約束した予定は必ず守る」28.6%だった。各項目の平均は3.33~3.56だった(表4-3)。

【ストレスコントロール力】の5項目の合計の平均値(SD)は15.00(3.24)だった(表3)。【ストレスコントロール力】の中で最も当てはまる項目は「自分にとってストレスを感じる状況や環境を理解している」「どうでもいいことは適当にやり過ごす」の2項目で24.5%だった。各項目の平均は2.90~3.25だった(表4-3)。

表3 社会人基礎力・ディプロマポリシー結果

	項目	平均	SD
アクション	主体性	16.71	3.20
	働きかけ力	16.54	2.71
	実行力	14.42	3.52
シンキング	課題発見力	16.33	2.15
	計画力	16.71	2.48
	創造力	13.06	3.14
チームワーク	発信力	15.92	2.40
	傾聴力	17.21	2.33
	柔軟性	16.56	2.10
	状況把握力	17.40	2.58
	規律性	17.42	2.23
	ストレスコントロール力	15.00	3.24
職業人意識	責任感	18.33	1.92
	向上心・探求心	15.76	2.88
ディプロマポリシー		100.22	9.88

表 4-1 社会人基礎力：「前に踏み出す力（アクション）」 2023 年度入学 1 年次

項目	人(%)				平均	SD	最も当てはまる項目(%)	
	あてはまらない (1点)	あまりあてはまらない (2点)	まああてはまる (3点)	あてはまる (4点)				
主体性	知らない事柄に出くわしたら自ら尋ねる・調べる	0(0.0)	3(6.1)	21(42.9)	24(49.0)	3.44	0.62	16.3
	皆が嫌な作業でも必要なら率先してやる	1(2.0)	6(12.2)	23(46.9)	18(36.7)	3.21	0.74	8.2
	課せられた役割・作業はベストを尽くす	0(0.0)	0(0.0)	17(34.7)	31(63.3)	3.65	0.48	30.6
	未経験でもチャンスと考え挑戦する	1(2.0)	5(10.2)	20(40.8)	22(44.9)	3.31	0.75	8.2
	行事の準備・片付けは頼まれなくても手伝う	0(0.0)	3(6.1)	20(40.8)	25(51.0)	3.46	0.62	16.3
働きかけ力	初対面でも自ら話しかける	4(8.2)	14(28.6)	19(38.8)	11(22.4)	2.77	0.90	6.1
	上手くいかないとき周囲に教え方を乞える	1(2.0)	4(8.2)	19(38.8)	24(49.0)	3.38	0.73	10.2
	他人に協力を依頼できる	1(2.0)	5(10.2)	13(26.5)	29(59.2)	3.46	0.77	16.3
	目標達成のために周囲に協力を得たことがある	0(0.0)	2(4.1)	11(22.4)	35(71.4)	3.69	0.55	20.4
	イベント企画を実現したことがある	3(6.1)	8(16.3)	11(22.4)	26(53.1)	3.25	0.96	28.6
実行力	目標時間を設定して達成を目指す	1(2.0)	10(20.4)	22(44.9)	15(30.6)	3.06	0.78	20.4
	仕事(学習)をするか計画を立てて前の日に終える	5(10.2)	13(26.5)	13(26.5)	17(34.7)	2.88	1.02	10.2
	目標を立てるときには必ず数字を入れて考える	2(4.1)	12(24.5)	26(53.1)	8(16.3)	2.83	0.75	12.2
	未経験仕事(作業)は最終ゴールを理解して予定を逆算する	3(6.1)	13(26.5)	19(38.8)	13(26.5)	2.88	0.89	12.2
	予定が狂ったら軌道修正してやり遂げる	1(2.0)	10(20.4)	21(42.9)	16(32.7)	3.08	0.79	28.6

表 4-2 社会人基礎力：「考え抜く力（シンキング）」 2023 年度入学 1 年次

項目	人(%)				平均	SD	最も当てはまる項目(%)	
	あてはまらない (1点)	あまりあてはまらない (2点)	まああてはまる (3点)	あてはまる (4点)				
課題発見力	不満を感じるときはその原因を探り考える	0(0.0)	8(16.3)	19(38.8)	21(42.9)	3.27	0.74	16.3
	作業を行う際は少しでも改善点を考える	0(0.0)	2(4.1)	30(61.2)	16(32.7)	3.29	0.54	10.2
	自分が考えた工夫で効率UPしたことがある	1(2.0)	5(10.2)	22(44.9)	20(40.8)	3.27	0.74	20.4
	機械にトラブルがあったら原因を考えて対応する	0(0.0)	9(18.4)	24(49.0)	15(30.6)	3.13	0.70	14.3
	上手くいかない原因を見つけて改善したことがある	0(0.0)	2(4.1)	26(53.1)	20(40.8)	3.38	0.57	20.4
計画力	イベント等を企画し無事に開催させたことがある	3(6.1)	8(16.3)	18(36.7)	19(38.8)	3.10	0.90	14.3
	何かを計画する際、「もしも」を考えるようにしている	0(0.0)	4(8.2)	23(46.9)	21(42.9)	3.35	0.64	22.4
	何かを行う際の手順やアイデアを複数考えるようにしている	1(2.0)	3(6.1)	25(51.0)	19(38.8)	3.29	0.68	16.3
	何かを行う際、複数の考えの中からベストを考えて行う	1(2.0)	1(2.0)	21(42.9)	25(51.0)	3.46	0.65	14.3
	計画を立てる際、優先順位を考えている	1(2.0)	2(4.1)	17(34.7)	28(57.1)	3.50	0.68	16.3
創造力	クリティカルシンキングを意識し心がけている	3(6.1)	12(24.5)	24(49.0)	9(18.4)	2.81	0.82	12.2
	日常の中でちょっとした新発見・発見をしたことがある	3(6.1)	14(28.6)	20(40.8)	11(22.4)	2.81	0.87	18.4
	「あったらいいなと思うもの」が商品化されたことがある	19(38.8)	17(34.7)	11(22.4)	1(2.0)	1.88	0.84	0
	他人からユニークと言われたことがある	11(22.4)	14(28.6)	11(22.4)	12(24.5)	2.50	1.11	24.5
	無駄と思いつつやってみたら心が動いた経験がある	4(8.2)	9(18.4)	15(30.6)	20(40.8)	3.06	0.98	24.5

表 4-3 社会人基礎力：「チームで働く力（チームワーク）」 2023 年度入学 1 年次

項目	人(%)				平均	SD	最も当てはまる項目(%)	
	あてはまらない (1点)	あまりあてはまらない (2点)	まああてはまる (3点)	あてはまる (4点)				
発信力	要点や話の順番を整理して簡潔に発言している	1(2.0)	10(20.4)	28(57.1)	9(18.4)	2.94	0.70	8.2
	相手の理解度に確かめつつ話をしている	0(0.0)	5(10.2)	21(42.9)	22(44.9)	3.35	0.67	16.3
	相手の立場や人権などに配慮して発言する	0(0.0)	1(2.0)	18(36.7)	29(59.2)	3.58	0.54	36.7
	意見が対立しないような言い方を考えて発言している	0(0.0)	4(8.2)	23(46.9)	21(42.9)	3.35	0.64	16.3
	大勢の中でもいうべき意見は言うことができる	4(8.2)	17(34.7)	17(34.7)	10(20.4)	2.69	0.90	4.1
傾聴力	話を聞く際、相手の気持ちを考え汲み取る努力をしている	0(0.0)	1(2.0)	12(24.5)	35(71.4)	3.71	0.50	32.7
	話を聞く際、ノンバーバルスキルを十分に使っている	0(0.0)	4(8.2)	15(30.6)	29(59.2)	3.52	0.65	24.5
	あまり興味のない話でも、適当に質問したりできる	1(2.0)	6(12.2)	19(38.8)	22(44.9)	3.29	0.77	8.2
	対立した意見でもすぐに反論したりはしない	0(0.0)	9(18.4)	19(38.8)	20(40.8)	3.23	0.75	6.1
	話を聞く際、その人の背景や立場も踏まえて聞く	0(0.0)	5(10.2)	16(32.7)	27(55.1)	3.46	0.68	8.2
柔軟性	意見の異なる人とは、どんな背景の差があるのかを考える	1(2.0)	5(10.2)	27(55.1)	15(30.6)	3.17	0.69	10.2
	嫌いな人の意見でもいい点では認めて取り入れる	0(0.0)	0(0.0)	28(57.1)	20(40.8)	3.42	0.50	16.3
	立場の異なる人ならどんな意見を出すか仮説を立てる	2(4.1)	12(24.5)	27(55.1)	7(14.3)	2.81	0.73	2.0
	謙虚さを持ち他者の良い点は取り入れるようにしている	0(0.0)	0(0.0)	20(40.8)	28(57.1)	3.58	0.50	20.4
	一度決めたことは状況により臨機応変さを大切にしている	1(2.0)	0(0.0)	17(34.7)	30(61.2)	3.58	0.61	30.6
状況把握力	自分の置かれた立場や状況を常にわきまえて行動をする	0(0.0)	4(8.2)	14(28.6)	30(61.2)	3.54	0.65	16.3
	自分の立場から求められる役割を意識して行動している	0(0.0)	4(8.2)	17(34.7)	27(55.1)	3.48	0.65	4.1
	相手との関係性を理解して適切な言葉遣いや行動をする	0(0.0)	1(2.0)	16(32.7)	31(63.3)	3.63	0.53	34.7
	周囲の人の立場や役割を意識して行動している	0(0.0)	2(4.1)	19(38.8)	27(55.1)	3.52	0.58	10.2
	トラブルがあった際、冷静に情報を収集し適切に判断できる	1(2.0)	6(12.2)	22(44.9)	19(38.8)	3.23	0.75	14.3
規律性	社会ルールの第一歩として元気な挨拶を実行している	0(0.0)	4(8.2)	14(28.6)	30(61.2)	3.54	0.65	22.4
	時間は1分でも遅刻だと理解し5分前行動を心がけている	0(0.0)	1(2.0)	19(38.8)	28(57.1)	3.56	0.54	24.5
	時間や締め切りに間に合わない場合、事前に連絡している	0(0.0)	6(12.2)	16(32.7)	26(53.1)	3.42	0.71	2.0
	約束した予定は必ず守る	0(0.0)	0(0.0)	21(42.9)	27(55.1)	3.56	0.50	28.6
	組織の指揮命令システムを理解して行動している	0(0.0)	4(8.2)	24(49.0)	20(40.8)	3.33	0.63	2.0
ストレスコントロール力	自分にとってストレスを感じる状況や環境を理解している	3(6.1)	4(8.2)	19(38.8)	22(44.9)	3.25	0.86	24.5
	自分なりのストレス・コーピング方法を知っている	5(10.2)	10(20.4)	16(32.7)	17(34.7)	2.94	1.00	16.3
	成長のために適度なストレスは受ける仕事に挑戦する	2(4.1)	8(16.3)	25(51.0)	13(26.5)	3.02	0.79	12.2
	どうでもいいことは適当にやり過ごす	3(6.1)	13(26.5)	18(36.7)	14(28.6)	2.90	0.90	24.5
	ストレスの発生源を改善・解決したことがある	5(10.2)	9(18.4)	20(40.8)	14(28.6)	2.90	0.95	8.2

チームワークの6要素の中で平均値をみると高い順に【規律性】17.42, 【状況把握力】17.40, 【傾聴力】17.21, 【柔軟性】16.56, 【発信力】15.92, 【ストレスコントロール力】15.00 だった。チームワークの30項目中、平均値が最も高いのが「話を聞く際、相手の気持ちを考え汲み取る努力をしている」、最も低いのが「大勢の中でもいうべき意見は言うことができる」だった。

4.6. 職業人意識

職業人意識では、【責任感】【向上心・探求心】の2要素で構成され、それぞれ5つの質問の計10項目の質問を行った。

【責任感】の5項目の合計の平均値 (SD) は18.33 (1.92) だった (表3)。各項目の平均値は3.47~3.84 だった (表5)。

【向上心・探求心】の5項目の合計の平均値 (SD) は15.76 (2.88) だった (表3)。各項目の平均値は3.04~3.31 だった (表5)。

【責任感】と【向上心・探求心】の平均値の差は2.57 あり、【向上心・探求心】の方が低かった (表3)。

4.7. ディプロマポリシー

ディプロマポリシーは、29項目の質問を行った。平均値 (SD) は「基本的な権利は国民に平等な権利である」3.57 (0.54), 「看護は全ての人々に平等に行わなければならない」3.65 (0.72), 「患者の自己決定を尊重しなければならない」3.73 (0.49), 反転項目の「人種や性

別などの差別は仕方がない」1.61 (0.84), 「個人が特定されなければ患者のことを他者に話してもよい」1.35 (0.60) であり、差別や個人情報、看護倫理にあたる項目の評価が高かった。また「たとえ意見が合わない人の話にも耳を傾ける」3.61 (0.61), 「困っている人がいたら、手を差し伸べる」3.65 (0.52), 「社会のルールは常に守っている」3.55 (0.58) と看護職としての資質にあたる項目が高い傾向にあった (表6)。

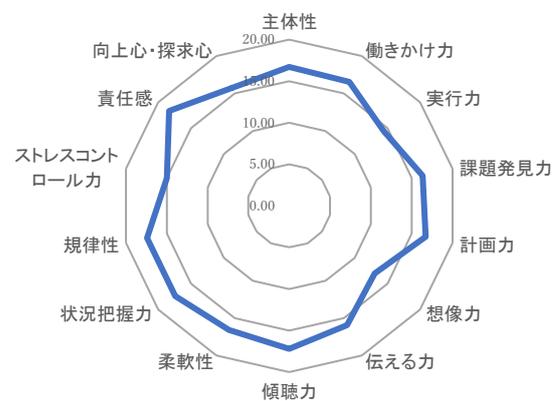


図4 アクション・シンキング・チームワーク・職業人意識

表5 職業人意識

項目	人 (%)				平均	SD	
	あてはまらない (1点)	あまりあてはまらない (2点)	まああてはまる (3点)	あてはまる (4点)			
責任感	社会の仕組みの多くは働く人の納税で成り立っていることを理解している	1 (2.0)	1 (2.0)	16 (32.7)	31 (63.3)	3.57	0.65
	ルールや規律、約束を一人ひとりが守ることが責任である事を理解し行動している	0 (0.0)	1 (2.0)	9 (18.4)	39 (79.6)	3.78	0.47
	無断で休んだり、遅刻すると周囲に大きな迷惑をかけることを理解し行動している	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (16.3)	41 (83.7)	3.84	0.37
	組織は一人ひとりの従業員 (学生) の行動によって社会から評価されることを理解し行動している	0 (0.0)	0 (0.0)	16 (32.7)	33 (67.3)	3.67	0.47
	組織に対するクレームや問題は従業員 (学生) 全員の責任である事を理解し行動している	1 (2.0)	2 (4.1)	19 (38.8)	27 (55.1)	3.47	0.68
向上心・探求心	わからないことはすぐに人に聞く前に自分でまず答えを考える	0 (0.0)	7 (14.3)	20 (40.8)	22 (44.9)	3.31	0.71
	自己成長のために定期的に取り組んでいることがある	0 (0.0)	7 (14.3)	20 (40.8)	22 (44.9)	3.08	0.89
	常に社会や経済の動きに関心を持つように心がけている	1 (2.0)	11 (22.4)	22 (44.9)	15 (30.6)	3.04	0.79
	社会問題等に対して自分なりの考えを持ち行動している	0 (0.0)	5 (10.2)	30 (61.2)	14 (28.6)	3.18	0.60
今後の仕事に職業能力を分析し向上させている	1 (2.0)	4 (8.2)	31 (63.3)	13 (26.5)	3.14	0.65	

表6 ディプロマポリシー

項目	人(%)				平均	SD
	そう思わない 行っていない (1点)	あまりそう思わない あまり行っていない (2点)	ややそう思う 時々行っている (3点)	そう思う いつも行っている (4点)		
基本的人権は国民に平等な権利である	0(0.0)	1(2.0)	19(38.8)	29(59.2)	3.57	0.54
人種や性別などの差別は仕方がない	28(57.1)	14(28.6)	5(10.2)	2(4.1)	1.61	0.84
障害者は特別に扱われなければならない	4(8.2)	18(36.7)	18(36.7)	9(18.4)	2.65	0.88
看護は全ての人々に平等に行わなければならない	1(2.0)	4(8.2)	6(12.2)	38(77.6)	3.65	0.72
患者の自己決定を尊重しなければならない	0(0.0)	1(2.0)	11(22.4)	37(75.5)	3.73	0.49
個人が特定されなければ患者のことを他者に話してもよい	35(71.4)	11(22.4)	3(6.1)	0(0.0)	1.35	0.60
幅広い分野の教養を身につけている	5(10.2)	17(34.7)	15(30.6)	12(24.5)	2.69	0.96
複雑な問題について順序立てて考えることが得意だ	5(10.2)	18(36.7)	22(44.9)	4(8.2)	2.51	0.79
誰もが納得できるような説明をすることができる	4(8.2)	25(51.0)	16(32.7)	4(8.2)	2.41	0.76
私の欠点は気が散りやすいことだ	8(16.3)	19(38.8)	16(32.7)	6(12.2)	2.41	0.91
物事を考えるとき他の案について考える余裕がない	6(12.2)	22(44.9)	16(32.7)	5(10.2)	2.41	0.84
課題がでなくても自ら進んで学習(予習・復習)をする	1(2.0)	16(32.7)	25(51.0)	7(14.3)	2.78	0.71
疑問を持ったことについては進んで調べている	0(0.0)	9(18.4)	25(51.0)	15(30.6)	3.12	0.70
苦手な科目や技術について克服する努力をしている	1(2.0)	9(18.4)	25(51.0)	14(28.6)	3.06	0.75
生涯にわたり学び続けたいと思う	3(6.1)	7(14.3)	21(42.9)	18(36.7)	3.10	0.87
新しいものにチャレンジすることが好きである	1(2.0)	8(16.3)	14(28.6)	26(53.1)	3.33	0.83
役に立つかわからないことでも、できる限り多くのことを学びたい	2(4.1)	8(16.3)	18(36.7)	21(42.9)	3.18	0.86
わからないことがあったら、先生や他の学生に積極的に聞く	2(4.1)	8(16.3)	19(38.8)	20(40.8)	3.16	0.85
先を考えて計画を立てることができる	1(2.0)	16(32.7)	19(38.8)	13(26.5)	2.90	0.82
いつも偏りのない判断をしようとする	2(4.1)	12(24.5)	23(46.9)	12(24.5)	2.92	0.81
一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	2(4.1)	5(10.2)	21(42.9)	21(42.9)	3.24	0.80
たとえ意見が合わない人の話にも耳を傾ける	0(0.0)	3(6.1)	13(26.5)	33(67.3)	3.61	0.61
他者のニーズを第一に心がけてケアを行っている	9(18.4)	2(4.1)	15(30.6)	23(46.9)	3.06	1.13
患者の優先順位を考えてケアを行っている	9(18.4)	2(4.1)	18(36.7)	20(40.8)	3.00	1.10
患者の情報を先入観なく把握している	9(18.4)	6(12.2)	22(44.9)	12(24.5)	2.76	1.03
状況を踏まえて、指導者に報告・連絡・相談をしている	4(8.2)	5(10.2)	21(42.9)	19(38.8)	3.12	0.90
他者のアドバイスを熟慮して実践に活かす	1(2.0)	2(4.1)	22(44.9)	24(49.0)	3.41	0.67
自己の能力を高めるために自分に合った勉強方法を用いている	1(2.0)	11(22.4)	22(44.9)	15(30.6)	3.04	0.79
世の中で起きていることについて興味を持っている	0(0.0)	11(22.4)	22(44.9)	16(32.7)	3.10	0.74
ボランティア活動に参加している	5(10.2)	24(49.0)	12(24.5)	8(16.3)	2.47	0.89
困っている人がいたら、手を差し伸べる	0(0.0)	1(2.0)	15(30.6)	33(67.3)	3.65	0.52
社会のルールは常に守っている	0(0.0)	2(4.1)	18(36.7)	29(59.2)	3.55	0.58
集団の中で自分の役割を果たしている	0(0.0)	6(12.2)	32(65.3)	11(22.4)	3.10	0.59
私は地域に貢献している	2(4.1)	21(42.9)	23(46.9)	3(6.1)	2.55	0.68

〔看護学〕

〔研究ノート〕

5. 考察

5.1. 将来目指す職業

将来目指す職業として、看護師だけを目指す学生が49.0%で、保健師・養護教諭・助産師だけを目指す学生は14.3%だった。複数の職業を目指す学生は全体の約3割で、すべて看護師を含んでおり1年次の入学当初から一つの職業ではなく、複数の専門職を考えている学生がいることが分かった。このことから、学部の特性として1年次の早い時期から職業意識が高い学生が多いと考えられる。

5.2. 学習状況・生活状況

平日の就寝時間が0:00以降の学生が65.3%であったが、起床時間が8:00以降の学生はいなかった。就寝時間0:00以降が約7割、睡眠時間が7時間未満が約4割であるが、「規則正しい生活ができている」と答えた学生は83.7%、「授業の出席率がよい」と答えた学生は100%で、自分に合わせた生活を送ることができていると考える。学習状況では、「予習をしている」学生は55.1%であるが、「復習をしている」学生は93.9%で、「授業の出席率はよい」100.0%であることから、学習状況は概ね良いと考えられる。しかし成績に満足していない学生が約9割であり、効率的かつ効果的な学習がまだ身につけていない学生や、学習の仕方がわからない学生もいるかもしれないと考える。「基礎ゼミナール」は1年次の必須科目であり、＜スタディスキル＞では、将来の目標を立てること、その目標を達成するためには何をしなければならぬのかを考える授業がある。また、ノートテイキングスキルやリーディングスキル・ライティングスキル向上のための授業がある。こういった基本的な学習技術の習得や学習習慣を身につけることは、重要であると考え。今後の調査のなかで学習への取り組み状況の変化を確認していきたいと考える。

相談相手がいって、友人関係がよく、大学生活を楽しんでいる学生が多いことがわかった。高校生の時とは違うあたらしい学生生活スタイルに早い時期から馴染んでいると考えられる。アルバイトをしている学生は48.9%で、大学の授業だけではなく、アルバイトといった社会との交流も社会人基礎力を養う上でも重要な生活体験である。令和4年度入学生の第1回調査報告⁷⁾では、アルバイトを週4回または5回している学生が35.9%であったのに対し、3～5回または4回と答えた学生は13.0%と少なく、5回している学生はいなかった。生活状況の違いが学習状況にも反映されている可

能性があり、アルバイトと他の項目との関連も今後検討していきたい。

5.3. 社会人基礎力と職業人意識

社会人基礎力の＜アクション＞＜シンキング＞＜チームワーク＞の構成要素の中で、平均値が高い順に【規律性】17.42, 【状況把握力】17.40, 【傾聴力】17.21だった。これらの要素はすべて＜チームワーク＞であり、信頼され社会での関係を築くために社会の規律を守ること、自分の立場や役割を理解し、他者と連携し協力する能力が、1年次からある程度身につけていると考えられる。また社会人基礎力全項目中で最も高い平均点が＜チームワーク＞の中の「話を聞く際、相手の気持ちを考えてくみ取る努力をしている」だったことから、看護師として他者との信頼関係を築くうえでも大切な能力が備わっている学生が入学していることがわかった。一方、低い要素順では、【創造力】13.06, 【実行力】14.42, 【ストレスコントロール力】15.00だった。このことは、クリティカルに考え、新たな価値を生み出し、ゴールに向かって目標を設定し確実に進んでいく実行力がまだ低いと考えられる。

看護職は、対象者のニーズに耳を傾け、立場の異なる多くの関係者と意見を出し合い、チームの一員として働く力が重要である。しかし、そういった力だけではなく、創意工夫し新しい価値観を柔軟にとり入れ、チームの目標を達成するために、主体的に、働きかけ、推進していく力も必要であると考え。

職業人意識では、【責任感】の各項目の平均値が高い傾向にあることがわかった。「無断で休んだり、遅刻すると周囲に大きな迷惑をかけることを理解し行動している」、「ルールや規律、約束を一人ひとりが守ることが責任である事を理解し行動している」の平均値が高く、決まりや規則を守る意識が入学初期から備わっていて、専門学部を選択し看護職になるという意識から【責任感】のある行動がとれていると考える。【向上心】は【責任感】と比べるとやや平均値は低い値をしめしたものの、【向上心】の中で、「分らないことはすぐに人に聞く前に自分でまず答えを考える」項目が他の項目より平均値が高く、これからの学修で職業人意識が醸成されると考える。

「基礎ゼミナール」は大学生として基礎的な態度、学習技術、学習習慣を身に付け、大学生活への動機づけとして位置づけられている。そして専門的知識と技術を持った看護職者として活躍できる人材を育成するために大学での学びの導入部分を担っている。＜アク

[看護学]

[研究ノート]

ジョン><シンキング><チームワーク>を意識した授業で学生が自ら計画し、実行し、振り返りを行うことに重点を置くとともに、仲間との協働を学ぶためにグループワークを取り入れた教育であることから社会人基礎力の醸成につながるのではないかと考えられる。今後の調査のなかで、「基礎ゼミナール」での教育によって、社会人基礎力がどのように変化していくか確認していきたい。

5.4. ディプロマポリシー

本研究は、看護学部での教育による学生の社会人基礎力の獲得状況とその課題およびディプロマポリシー到達度について明らかにすることを目的としており、今回の調査は、初年次教育を始める前の学生を対象に調査をおこなったものである。

差別や個人情報、看護倫理、看護職としての資質にあたる項目が高かったことから、1年次の早い時期から高い倫理観、看護職としての資質がすでに備わっていると考えられる。「誰もが納得できるような説明をすることができる」「私事を考えるとき他の案について考える余裕がない」の平均値が低いことから、まだ考え抜く力である<シンキング>が十分でないことがわかり、今後の学生の課題と考える。

6. 今後の課題

本研究は、令和4年度と5年度に入学した学生を対象にそれぞれ4年間調査を行うものであり、今回の調査は令和5年度入学した学生の第1回目の調査であったため、調査結果を記述統計量でまとめたものである。今後は学年別、経年変化の検討を行い、看護学部での教育による学生の社会人基礎力の獲得状況とその課題およびディプロマポリシーの到達度を明らかにしていきたい。

7. 引用・参考文献

- 1) 文部科学省：令和4年度学校基本調査, https://www.mext.go.jp/content/20221221-mxt_chousa01-000024177_001.pdf (アクセス2023年9月)。
- 2) 経済産業省：社会人基礎力, <https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>. (アクセス2023年9月)。

- 3) 文部科学省：令和2年度の大学における教育内容等の改革状況についての調査, https://www.mext.go.jp/content/20230117-mxt_daigakuc01-000025974_1r.pdf (アクセス2023年9月)。
- 4) PROG：ジェネリックスキル成長支援プログラム, <https://www.riasec.co.jp/progtest/test/>. (アクセス2023年9月)。
- 5) 厚生労働省：エンプロイアビリティの判断基準に関する調査研究報告書について, <https://www.mhlw.go.jp/houdou/0107/h712-2html> (アクセス2023年9月)。
- 6) エンプロイアビリティチェックシート 総合, 2001. 厚生労働省：<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11800000-Shokugyounouryokukai-hatsukyoku/0000199569.pdf> (アクセス2023年9月)。
- 7) 立川美香, 佐藤美幸 他：看護学部学生の社会人基礎力の獲得に関する研究, 令和4年度(2022)入学生第1回目調査結果報告, 宇部フロンティア大学紀要・年報, 3巻, pp25-36, 2023.
- 8) 北島洋子, 細田泰子, 星和美：看護系大学生の社会人基礎力の構成要素と属性による相違の検討, 大阪府立大学看護学部紀要, 17巻1号, pp13-23, 2011.
- 9) 新野由子, 糸井和佳 他：看護学士課程1年生の社会人基礎力の変化 第1報 初年次教育の基礎ゼミを通して；帝京科学大学紀要, Vol.15, pp1-9, 2019.
- 10) 奥田玲子, 深田美香；看護学生の社会人基礎力の経年的変化と影響を及ぼす経験要因；米子医学雑誌, 70巻1-3号, pp13-24, 2019.
- 11) 市川裕美子, 山野内靖子：看護学生の社会人基礎力の学年別自己評価と変化, 八戸学院大学紀要, 第56号, pp161-166, 2018.
- 12) 佐藤由記子；看護学生の社会人基礎力の実態と育成方法の検討；研究紀要青葉, 第13巻第2号, pp153-160, 2022.
- 13) 古賀雄二, 石田実知子 他：A大学看護系学科における新入生と卒業生の社会人基礎力の比較, 川崎医療福祉学会誌, Vol.31 No.2, pp395-405, 2022.
- 14) 山本幸子, 田中マキ子：看護学臨地実習が社会人基礎力に影響を及ぼす要因, 日本看護学会論文集, 看護教育(1347-8265)49号, pp67-70, 2019.